

< 楽譜や解説は Acrobat Readerで拡大して見る事が出来ます >

Am F G

↓-200

d u d u d u d u ~simile~

T 10 12 13 15 13 12 13 15 12 15 13 12

A 7 9 10 12 10 9 10 12 15 13 12 14 12

B 10 9 7 9 10

小 薬 人 薬 小 人 薬 小 小 中 人 中 小 人 薬 小 小 中 人 中 小 人 小 人 中 小 中 人 小 中 人 薬 人

## < ポールギルバート風オルタネイト 16分ピッキングフレーズ攻略法 >

### ・シンプルな1弦3音パターンの速弾きフレーズから脱却する方法

ポール・ギルバートと言えば「1弦3音パターンの速弾きフレーズ」というのが印象的ですが、あまりにもそればかり繰り返していると速弾きのパターンも尽きてしまいますし、当然「フレーズのマンネリ化」につながってきます。それを脱却するには「横に動くフィンガリングの動き」を導入されるのをオススメします。譜例は1弦3音パターンのフィンガリングをしながらも、最後の音を横に「スライドさせる」事によって、ポジションを変えて同じ音が弾かれないように工夫しています。また、1小節目の音の動きと2小節目の音の動きを変えることによって速弾きフレーズのマンネリ化を防いでいます。また、ポール・ギルバートはMr.Bigに加入する前にRACER Xという自分のバンドをやっていて、最近再結成があったようで話題になりましたが、そこではMr.Bigで聞かれたブルーザーなフレーズではなく、速いテンポでの16分音符や6連符を多用したメカニカルなフレーズが目立ちました。また、その高速フレーズをキープしたままもう一回3度上等でフレーズを重ねる事によって「高速のハモリフレーズ」というのをバンドの売りにしていました。これらのフレーズは一時はギタリストがもう一人いた時期もあったのですが基本的にはポールが一人でダビングによって重ねているようです。その為には「速弾きのコントロール」が重要な要素になります。むやみやたらと滅茶苦茶弾いたプレイでは後からハモリを重ねるのは不可能に近いですから（笑）そのためには「このテンポがまだだったら自分はコントロールして弾ける」という「テンポの限界」を知っておくのがポイントになるでしょう。

### ・右手と左手のタイミングを合わせる為の練習方法

ポール・ギルバートのような高速プレイになると、右手と左手をぴったり合わせるのが至難の業になってきます。「うーん、16分音符の7つ目の音のタイミングが合わない」と悩んでいる方もおられるかもしれません。そういう時のポイントは「目印となる音を決めて、その音に向かって弾いていく意識で演奏する」事です。速いフレーズの一音一音を弾いているのではフレーズのノリも悪くなりますし、逆にタイミングが合わなくなってしまうケースも出てきます。譜例を弾く場合、「小指 小指」とスライドで動いている所に注目して下さい。ここでピッキングを「ダウンピッキング」で合わせるように意識しながら僕は演奏しました。左手はスライドですが、右手はしっかりとピッキングしていきます。こうすることによって、ポイントポイントで右手と左手を合わせる意識を作ることが出来て、タイミングがずれにくくなります。

### ・弦飛び時にピッキング・ノイズを消す方法

1本弦だけを弾いている時と違って、譜例のようなプレイでは「弦移動」について考えなければいけません。例えば4弦から3弦に移る瞬間に弦がつかかってしまう等の悩みを抱えておられる方は多いと思います。こういう時に意識すると良いのが、ポールギルバート自身も強調して説明している「アウトサイド・ピッキングです。」複数の弦をピッキングするとき、具体例として4弦 3弦を弾くとしてピッキング方法としては「4弦ダウン 3弦アップ」、「4弦アップ 3弦ダウン」、「4弦ダウン 3弦ダウン」、「4弦アップ 3弦アップ」の4通りが考えられますが、2番目の「4弦アップ 3弦ダウン」だと、弦と弦の間にピックがあるのでスピードが出しにくいということと、4弦をアップした後に、ピックは「4弦の上」にいるので3弦をピッキングするときにまたもや「4弦をミス・ピッキング」してしまう可能性が出てきてしまいます。1番目の「4弦ダウン 3弦アップ」であれば、4弦をダウンピッキングしながらも、同じ動作内で3弦を飛び越える事が出来ますので、ノイズの発生率が少なくなるのと、速いテンポで弾きやすくなります。3番目の「4弦ダウン 3弦ダウン」はイングヴェイ・マルムスティーンの得意技ですね。4番目の「4弦アップ 3弦アップ」は重力に反している動きで全くお奨めできるものではありませんが、実はポールはまれにこのピッキングを使うことがあります。

### ・ポールギルバート関連おすすめ曲

セカンド・ヒート「スカリファイド」(RACER X)  
リン・イントゥ・イット「ダディー・ブラザー・ラバー・リトル・ボーイ」(Mr.Big)  
パンプ・アヘッド「コロラド・ブルドック」(Mr.Big)